

## プロジェクト科目 議事録

06年 10月 29日提出

プロジェクト科目 テーマ名 小学生のための能楽入門プログラムの開発と研究			
記録者氏名 G	学生 ID -		
日時	2006年	10月	27日(金)
	15:00	~	17:50
場所 寧静館 501			
議題 能楽師・小学校・行政などが主催する取り組みと、能プロの取り組みを比較したとき、能プロの「ウリ」と言えるものは何か？			
参加者 A、C(4限後退出)、D(遅刻、17時頃退出)、E、G、H、T			
記録			
【配布物】	金剛流能楽師bのブログの中で、春学期WSについて書かれていたページをプリントアウトしたもの		
【使用機材】	会議撮影用ビデオカメラ、PC、プロジェクター、スクリーン		
【本日の会議の位置づけ・流れ】			
本プロジェクトの「ウリ」を模索			
Aによる、幹部会議(10月23日5限[A、B、C]、10月27日1限・昼休み~3限[A、C])の報告をもとに、本プロジェクトの「ウリ」を模索する。			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プrintの配布(A)</li> <li>2. 議事録・活動報告書のe-class掲示板へのアップ/mixiの能プロコミュニティについて(A)</li> <li>3. 幹部会議の報告(A)</li> <li>4. 幹部会議の報告をもとに話し合い</li> <li>5. 秋学期WSの日程について</li> <li>6. 来週のスケジュールと課題</li> </ol>			
【会議の内容】			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プrintの配布 Aが、金剛流能楽師bが自身のブログの中で春学期WSについて触れている部分と、金</li> </ol>			

剛流能楽師b主催の能楽体験WSの概要を印刷したものを配布した（詳しくはプリントを参照のこと）。

## 2. 議事録・活動報告書の e-class 掲示板へのアップ/mixi の能プロコミュニティについて

Aから、現在の能プロの情報共有システム、議事録・活動報告書などについて提言があった。

### ○ 議事録の e-class 掲示板へのアップについて

議事録は、議事録作成者が掲示板にアップしたら、なるべく早く確認・訂正をいれるようにすること。

### ○ 活動報告書の e-class 掲示板へのアップについて

- ・ あるメンバーから、毎週活動報告書を書き、掲示板で公開することに疑問の声があがった。

⇒そもそも何故活動報告書を書くのかというと、科目担当者が成績をつける為である。

また、何故個人の活動報告書を全体に公開するようになったのかというと、春学期WS直前に各自の仕事量の差をなくす必要があったからである。

〈「現在の」そして「これからの」活動報告書を書き、公開することのメリット〉

- 自分が1週間何をしたのか振り返ることができる。また、次何をしたら良いのかが分かる。
- 誰が何をしているのか、自分がチームの中でどのような役割を果たしているのかが分かる（プロジェクト全体のタスクの進み具合が分かる）。
- 各自の「感想」の部分を読むことで、それぞれが何に悩み何を考えているかが分かる。それに対して反応を返すことができる。
- 「感想」の部分に個人的に能に関してリサーチしたことと、それに対する感想などを書き込めば、皆にそれを発信できる（今週のAの活動報告書を参照すること）。
- 以前の会議で必要性が指摘された情報共有の実現のためのツールになる。

上記のメリットのために、活動報告書を書き、全体に公開することは今後も続けていく必要がある。

- ・ 活動報告書の提出期限を守るようにすること。
- ・ できる限り他のメンバーの活動報告書にコメントをつけること。

- mixi のコミュニティについて

情報共有という目的達成のためなるべくこまめに訪問すること。

### 3. 幹部会議の報告

先週の授業（総括について）を受け、10月23日（月）の5限（A、B、C出席）、及び10月27日（金）の1限と昼休み～3限（A、C出席）に幹部会議が行われた。

〈議題〉総括において、他との比較が足りなかったのではないかと？

会議の結果、3人で分担して他の団体がどのような取り組みをしているのかりサーチすることになった。

- A： 能楽師
- B： 小学校
- C： 京都府

- Aの研究結果発表 能プロWSと能楽師主催WSの比較

	能プロ主催	能楽師主催
装束・楽器などの使用	少ない	豊富
1回のWSに要する時間	短い（2時間）	長い（月2で4ヶ月など）
専門性 （注：説明の詳しさなど）	低い （注：能楽師と比べ）	高い
対象年齢	小学校3年生に限定	幅広い年齢に対応
プログラムのタイムテーブル	児童の動きを見ながら柔軟に対応	スケジュール通り （注：公表されていないものが多いので、予測）

- まとめ

能楽師と比べ、我々が専門的な知識や技術の点で劣るのは当然である。

しかし、対象年齢を小学校3年生に限定し、授業参観などの事前リサーチを重ねて企画を構成している点に、私たちの「独自性」があるのではないかと。

⇒「研究」の部分＝「ウリ」にできる

### 4. 幹部会議の報告をもとに話し合い

〈議題〉能プロの「ウリ」は何か？

- 行政の取り組みを検索

徳島市や京都市の取り組みなどをWebで検索

⇒**新たな疑問** 本当に文化のためにやっているのか？「小学生」「能」「地域」をつなげるためにやっているのか？

○ まとめ

能楽師主催WSや行政主催WSは、参加者を一般公募する機会が多いため、対象年齢が幅広くなる傾向にある。それに対し、能プロは対象年齢を小学校3年生に限定している。このメリットとしては、コンセプトを打ち出しやすいことや研究が深めやすいことなどが挙げられる。

研究が深められるということは、「WSのやりっ放し」「場当たりのな取り組み」などを防ぐことに繋がる。そして、小学生と能、そこから広がる様々な交流の輪を、より緻密にプロデュースすることができる。

以上のことから、

**能プロの独自性＝対象年齢の限定**

**能プロのウリ＝「研究」の部分**

であると言える。

○ 今後について

- ・ 「研究」の部分をウリにする以上、Webなどで更に詳しい調査が必要である。その際には、その取り組みの主催者、応募資格、募集人数など細かな点まで含めて調査する必要がある。
- ・ Webサイト作成の目的が変わってくる可能性が出てきた。  
⇒「プログラムの宣伝」から「既存の取り組みへの問題提起」へ。
- ・ T) 今後はWSの企画、Webサイトの作成を同時に進めていく必要がある。毎回会議で話し合ったことを双方に反映させていくこと。

5. 秋学期WSの日程について

12月中実施が望ましい。

**交渉のために早急に①WSのアウトライン②規模③所要時間の決定が必要である。**

6. 来週のスケジュールと課題

- ・ 11月3日(金)の授業は祝日のため休講
- ・ 10月31日(火)の4・5限に会議実施。議題はG作成の企画案の練り直しとサイトツリーの作成

※会議までにG案の練り直しとサイトツリーの作成について考えてくること。